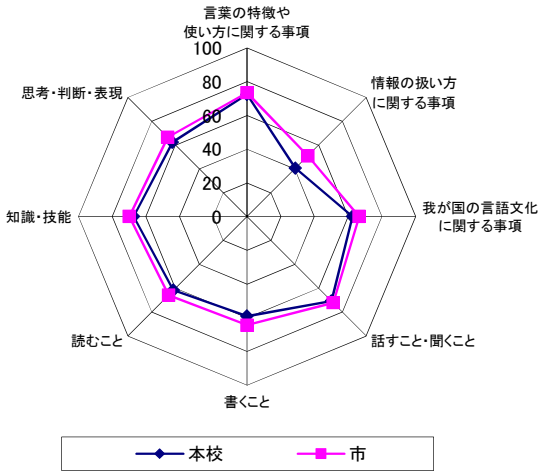
# 宇都宮市立上河内中央小学校 第６学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 72.5 | 73.5 | 74.4 |
| | 情報の扱い方に関する事項 | 40.6 | 51.0 | 51.5 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 62.5 | 66.5 | 68.8 |
| | 話すこと・聞くこと | 70.8 | 72.3 | 73.7 |
| | 書くこと | 59.0 | 64.3 | 66.6 |
| | 読むこと | 61.8 | 65.8 | 64.9 |
| 観点別 | 知識・技能 | 67.3 | 69.8 | 70.8 |
| | 思考・判断・表現 | 62.5 | 66.5 | 67.3 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。




## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

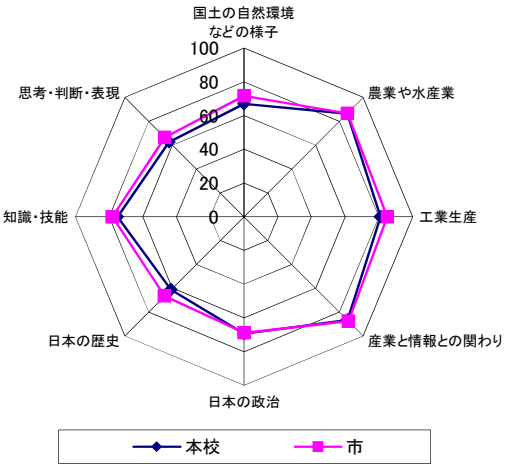
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 校内正答率は72.5%で，市より1.0ポイント低い。<br>○漢字を読む，書く問題の正答率は，6問中4問で市を上回っている。<br>○文章の中で，文脈に沿った漢字を適切に使う問題の正答率は97.9%で，市より8.8ポイント高い。<br>●文と文との接続の関係を問う問題の正答率は37.5%で，市より13.8ポイント低い。 | ・漢字を読む，書くの学習については，今後もドリル等で繰り返し学習するよう継続して指導し，ミニ漢字テストの実施や日常的に漢字を使用するよう促したり，正誤を確認させることで，漢字への意識を高め，漢字を使うことへの定着を図る。<br><br>・作文指導や全学習活動における文章作成の機会を捉えて，文と文との関係に着目させ，接続詞の正誤への意識を高める。 |
| 情報の扱い方に関する事項 | 校内正答率は40.6%で，市より10.4ポイント低い。<br>○情報と情報との関係について理解し，目的に応じて文章を簡潔に書く問題の正答率は52.1%で，市より0.8ポイント高い。<br>●情報と情報との関係について理解し，文章の情報を整理する問題の正答率は29.2%で，市より21.5ポイント低い。 | ・目的に合わせて情報を収集し，資料を関連付けながら読み取る活動を行ったり，読み取ったことをもとに考えを深める活動を行ったりすることで，思考力を高めていく。<br><br>・他教科においても，情報を関連させて考えさせ，情報を整理したり短い言葉でまとめさせたりする活動を行っていく。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | 校内正答率は62.5%で，市より4.0ポイント低い。<br>●語句の由来に関心をもち，和語，漢語，外来語について理解している問題の正答率は62.5%で，市より4.0ポイント低い。 | ・漢字の学習では，新出漢字を読んだり書いたりする学習に留まらず，成り立ちや漢字のつくり，意味など，言語に対する理解を深めていけるようにする。 |
| 話すこと・聞くこと | 校内正答率は70.8%で，市より1.5ポイント低い。<br>○話の内容を捉える問題の正答率は95.8%で市より2.3ポイント高い。<br>●意図に応じて質問を工夫する問題の正答率は75.0%で市より2.0ポイント，自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える問題の正答率は41.7%で，市より4.7ポイント下回った。 | ・国語の授業や朝の会のスピーチ等において，相手の話から気になる点を見つけながら聞く・気になったことを更に質問する機会を設け，意図をもって聞く習慣をつけるようにしていく。<br>・自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることができるようになるために，聞き取ったことを端的にメモをすることをアドバイスするとともに，メモをする前に聞き取る観点を書いておくことを指導し，実践を通して身に付けさせるようにする。 |
| 書くこと | 校内正答率は59.0%で，市より5.3ポイント低い。<br>●目的や意図に応じて書き表し方を工夫する問題の正答率は68.8%で，市より1.7ポイント低い。<br>●指定された長さで文章を書く問題の正答率は56.3%で，市より12.2ポイント低い。<br>●段落の役割について理解し，2段落構成で文章を書いている問題の正答率は47.9%で，市よりも15.3ポイント低い。 | ・今後も，自分の意見を明確にし，予想される反対意見を自分自身で想定して書けるような題材を提示し，作文に書く機会を作る。<br>・筋の通った意見文になっているか見分ける目を育てるために，互いに書いた作文を読み合う機会を設け，作文の筋が通っているか，改善点はどこかを考えさせるなど作文指導を充実させていく。 |
| 読むこと | 校内正答率は61.8%で，市より4.0ポイント低い。<br>○人物像を具体的に想像する問題の正答率は89.6%で，市よりも3.7ポイント高い。<br>●叙述を基に文章の内容を捉える問題の正答率が54.2%で，市より5.4ポイント低い。 | ・物語文の学習では，重要な語句について話し合ったり，サイドラインを引いたりなどの作業を通し，本文の叙述に即して読むことで，登場人物の様子や気持ちを読み取らせる。<br>・説明文の学習については，本文を読み取るときに情報と情報との関係について構造図をかくなどして，文章の情報を整理していくようにさせる。 |

# 宇都宮市立上河内中央小学校 第６学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 国土の自然環境などの様子 | 66.9 | 71.6 | 69.6 |
| | 農業や水産業 | 86.4 | 86.7 | 83.7 |
| | 工業生産 | 81.0 | 85.0 | 79.5 |
| | 産業と情報との関わり | 86.7 | 87.7 | 77.4 |
| | 日本の政治 | 69.4 | 68.9 | 71.7 |
| | 日本の歴史 | 61.2 | 66.7 | 66.3 |
| 観点別 | 知識・技能 | 75.0 | 78.0 | 76.7 |
| | 思考・判断・表現 | 62.8 | 66.4 | 63.1 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。




## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

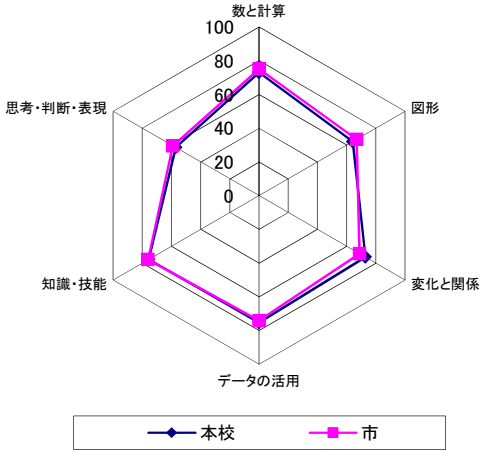
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 国土の自然環境などの様子 | 校内正答率は66.9%で，市より4.7ポイント低い。<br>○日本の周辺の海洋名について答える問題の正答率は89.8%で，市より2.5ポイント高い。<br>●日本の主な地形の名称（湖）について答える問題の正答率は59.2%で，市より14.8ポイント低い。 | ・地図帳や地球儀を活用し，日本の主な地形の名称や位置について理解させたり，ワークシートを活用したりすることで知識の定着を図る。 |
| 農業や水産業 | 校内正答率は86.4%で，市より0.3ポイント低い。<br>○米の生産の工程について答える問題の正答率は87.8%で，市より6.2ポイント高い。<br>●米の生産が盛んな地域についての理解をもとに，資料を判断する問題の正答率は85.7%で，市より4.8ポイント低い。 | ・資料を読み取ったり資料を基に考察したりする力を育てるために，資料から読み取れることを話し合ったり，資料を基に自分の考えを説明したり，まとめたりする活動を積極的に取り入れる。<br>・各地の特産物について理解を深めるための調べ学習やワークシートの活用を図る。 |
| 工業生産 | 校内正答率は81.0%で，市より4.0ポイント低い。<br>○日本の工業の特色について，資料をもとに表現する問題の正答率は77.6%で，市より4.2ポイント高い。<br>●自動車の製造工程について答える問題の正答率は79.6%で，市より9.7ポイント低い。 | ・資料から情報を読み取って，整理し，必要な事柄を抜き出す活動や資料から読み取れることを話し合ったり説明したりする活動を取り入れる。<br>・自動車の製造工程など，工業製品の生産の流れを，図や動画などの資料を活用することで，知識の定着を図る。また，それぞれの工業で生産される製品についても調べ学習をさせることで理解を深める。 |
| 産業と情報との関わり | 校内正答率は86.7%で，市より1.0ポイント低い。<br>○情報の発信と受信の注意点について考え答える問題の正答率は79.6%で，市より0.5ポイント高い。<br>●さまざまなメディアの特徴について答える問題の正答率は93.9%で，市より2.4ポイント低い。 | ・身近なマスメディアの特徴や情報ネットワークの利便性について，日常的に機会を捉えて具体的な場面で説明するとともに，情報化社会における正しい情報の受け取り方等について今後も指導していく。<br>・資料を基に自分の考えを説明したり，まとめたりする活動を取り入れる。 |
| 日本の政治 | 校内正答率は69.4%で，市より0.5ポイント高い。<br>○天皇の地位について解答する問題の回答率は69.4%で，市より6.4ポイント高い。<br>●内閣の働きについて答える問題の正答率は38.8%で，市より3.6ポイント低い。 | ・内閣の働きについての情報を読み取り，必要な事柄を抜き出す活動や，読み取ったことを話し合う活動を取り入れる。 |
| 日本の歴史 | 校内正答率は61.2%で，市より5.5ポイント低い。<br>○大王について答える問題の正答率は57.1%，市より6.6ポイント高い。<br>●源平の戦いの理解をもとに，資料を判断し答える問題の正答率は42.9%で，市より12.8ポイント低い。 | ・それぞれの時代の特徴や時代のつながりを押さえられるよう，時代を代表する歴史事象や人物の業績について調べたことを，年表や図表，新聞などにまとめる活動を積極的に取り入れる。また，歴史的事象の起きた場所についても地図などで確認する。 |

# 宇都宮市立上河内中央小学校 第６学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と計算 | 73.1 | 75.1 | 75.8 |
| | 図形 | 64.2 | 66.8 | 68.3 |
| | 変化と関係 | 72.9 | 68.8 | 65.0 |
| | データの活用 | 75.3 | 74.1 | 63.6 |
| | | | | |
| | | | | |
| 観点別 | 知識・技能 | 75.6 | 76.1 | 75.8 |
| | 思考・判断・表現 | 57.0 | 59.0 | 51.7 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。




## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

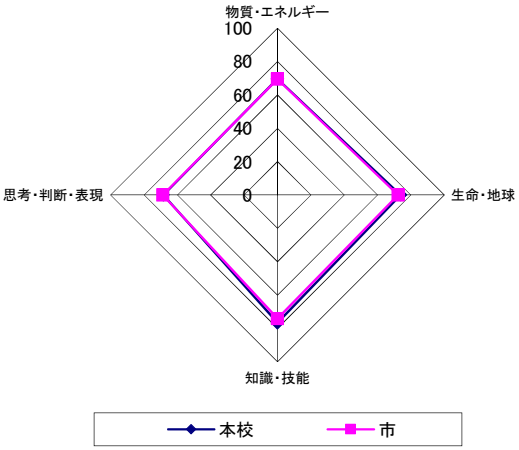
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 数と計算 | 校内正答率は73.1%で，市よりも2.0ポイント低い。<br>○小数のかけ算の正答率は70.8%で，市より4.7ポイント，小数のわり算の正答率87.5%で，市より5.6ポイント高い。<br>○小数の計算の文章題が2問出ていたが，2問とも正答率は市より高い。<br>●分数の計算問題が3問出ていたが，正答率は3問とも市の平均を下回った。特に分数の割り算（約分あり）の問題では，正答率が64.6%で，市と比べて16.1ポイント低い。<br>●分数の割り算の文章問題にあった図を選ぶ問題では，正答率が66.7%で，市の平均と比べて10.7ポイント低い。 | ・通分や約分，分数のわり算の，割る数を逆数にすることが苦手だと考えられる。ドリル等を活用して宿題や朝の学習等で継続的に指導していく。<br>・分数のかけ算，割り算を普段の授業で扱う際，数直線を使って問題を解くように意識して指導し，比較量や基準量の求め方について考えさせていく。ペアやグループで学び合いながら考えを定着させるよう指導していく。<br>・少人数指導や習熟度別の学習を通して，友達との関わり合いや個別での指導を大切にしていく。 |
| 図形 | 校内正答率は64.2%で，市より2.6ポイント低い。<br>○正六角形の作図方法から，円の中心のまわりにできる角の大きさを求める問題の正答率は87.5%で，市より5.4ポイント高い。<br>●線対称について理解し，示された方法で図形をつくることができるかどうかを説明する問題での正答率は25.0%で，市より13.6ポイント低い。 | ・ICT機器や模型などを活用して，分かりやすい授業を行うとともに，少人数指導やTT指導などを行い，きめ細やかな指導を行っていく。<br>・実際に行う作業やグループでの学習などを充実させ，体験から学べるような指導を工夫していく。 |
| 変化と関係 | 校内正答率は72.9%で，市より4.1ポイント高い。<br>○基準量と比較量から割合を求める問題の正答率は68.8%で，市よりも15.0ポイント高い。<br>●表から面積と数の割合を求め，どのにわとり小屋が最も混んでいるかを考察する問題の正答率は68.8%で，市よりも4.6ポイント低い。 | ・単位量あたりの大きさで，割合を求める場合は，何が基準量なのかということや，どちらが混んでいるかなどの判断の仕方を考えられるよう指導していく。 |
| データの活用 | 校内正答率は75.3%で，市より1.2ポイント高い。<br>○円グラフを読み取る問題の正答率は95.8%で，市より5.6ポイント高い。<br>○ドットプロットのデータを度数分布表に表す問題の正答率は89.6%で，市より3.7ポイント高い。<br>●問題の場面を理解し，4日間に走った道のりの平均から，2週間に走ると考えられる道のりを求める問題の正答率は35.4%で，市より6.2ポイント低い。 | ・自分が調べたい事柄のためには，どんなデータが必要かを考えたり，身の回りのデータを多面的に読み取ったりできるようにする。<br>・読み取ったデータからどんなことが分かるのかを自分の言葉で表現できるように，普段の授業で自分の考えを説明し合う機会を増やしていく。 |
| | | |

# 宇都宮市立上河内中央小学校 第６学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 69.6 | 69.5 | 65.2 |
| | 生命・地球 | 73.9 | 72.3 | 70.1 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 観点別 | 知識・技能 | 76.6 | 74.0 | 70.7 |
| | 思考・判断・表現 | 68.3 | 68.7 | 65.5 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※参考値は，他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。




## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 物質・エネルギー | 校内正答率は69.6%で，市とほぼ同じである。<br>○ふりこの周期と振り子の長さの関係を指摘する問題の正答率は86.0%で，市より15.0ポイント高い。<br>○水溶液を熱すると個体が残ることから土の水溶液であるかを推測する問題の正答率は84.0%で，市より9.8ポイント高い。<br>●グラフを読み，食塩とミョウバンの水へのとけ方について指摘する問題の正答率は64.0%で，市より14.0ポイント低い。 | ・今後も，実験を行う際は，正しい方法で全員が実験を行うことができるようにする。また，実験結果からより妥当な考えをもてるよう支援していく。<br>・フローチャートを使って，見通しをもって実験を進めたり，実験と実験を繋げて考えたりできるようにしていく。 |
| 生命・地球 | 校内正答率は73.9%で，市より1.6ポイント高い。<br>○浸食についての理解の問題での正答率は88.0%で，市より17.3ポイント高い。<br>○ボールを月に見立てたとき，まったく光が当たってないように見えるボールの位置を問う問題の正答率は88.0%で，市より6.1ポイント高い。<br>●植物のつくりと働きの問題で，水の通り道のまとめの結論を導くために必要な実験の結果を指摘する問題の正答率は76.0%で，市より8.7ポイント低い。 | ・他教科の学習と関連させながら，さらに理解が深まるよう指導していく。<br>・実験を全員が行うことで，実感を伴って理解した結果と考えられるので，今後もモデル実験や観察を丁寧に行い，知識の定着を図る。<br>・身に付けた複数の知識を，条件に合わせて活用することができるように，授業の中で学習したことや思考を可視化できるように工夫する。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

# 宇都宮市立上河内中央小学校
# 学力向上に向けた学校全体での取組

**★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること**

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|---|---|---|
| 基礎的・基本的な知識・技能の習得 | 姿勢・話し方・聞き方等の学習のきまりを徹底させたり，朝の学習の時間を活用して，「上央小算数検定」や音読等の活動を実施したりしている。 | 「授業のはじまりには席についていますか」に肯定的に回答した児童の割合は，4・5年生を除いた学年で市の平均を上回った。6年生の学力調査の「知識・技能」の結果においては，理科を除くすべての教科で市の平均を下回った。「思考・判断・表現」の結果においても，すべての教科で市の平均を下回った。 |
| 「上央小授業スタンダード」の活用と学び合う活動の充実 | 全教職員で「上央小授業スタンダード」を確認し，「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業を展開するようにしている。課題解決の場面では，ペアやグループ学習など意図的な交流の場を設定・工夫し，学び合う活動を充実させるようにしている。 | 全学年対象の設問「グループなどでの話合いに自分から進んで参加している」に肯定的に回答した児童の割合が，2・3・6年生で市の平均を上回った。3～6年生対象の設問「自分の考えを，理由（根拠）をあげながら話すことができる」に肯定的に回答した児童の割合が，5年生を除いた学年で市の平均を上回った。 |

**★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性**

基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けて継続した取組を行ってきたが，今回の結果から，まだまだ定着には個人差が見られることが分かる。国・県の調査においても，語彙力・読解力が低く，教材文や設問を正しく理解する力や，資料を読み取る力に課題が見られたので，読書活動を充実させ，朝の読書の時間などに，学年お勧めの本を読み，まとまった文章を読む習慣を身に付けさせるようにする。読書の習慣が身に付くよう，家庭とも連携を図っていくようにする。

また，県の調査においては，記述式の設問で，無回答や条件を満たしていない記述が見られ，自分の考えを根拠をもとに説明したり記述したりすることが苦手である傾向が見られた。そこで，自分の考えを根拠を明確にして伝えたり，自分の考えをもって話合い活動に参加したりできる児童を育成するための指導方法を研究していくようにする。